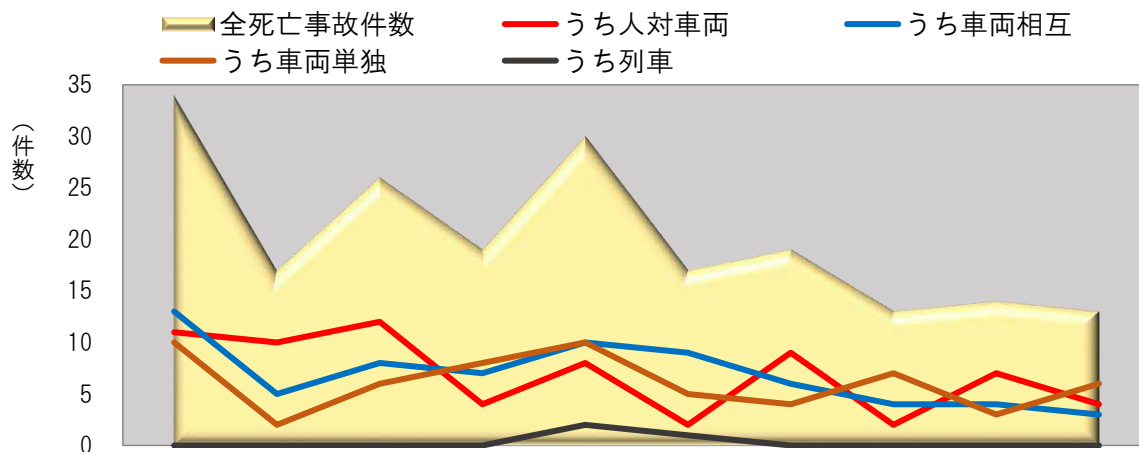


信号機のない横断歩道における交通事故の分析結果について
～鳥取県内の過去10年間（平成27年から令和6年）の分析～

1 過去10年間の交通事故発生件数の推移

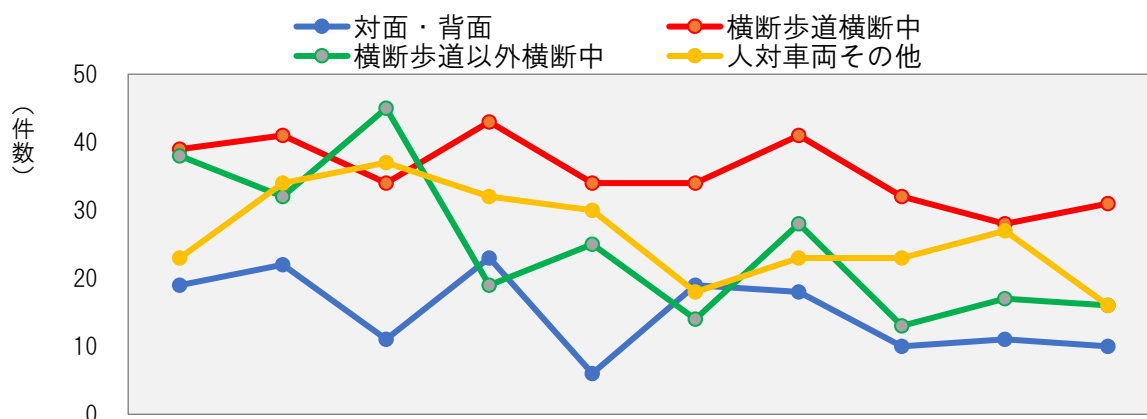


	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
発生件数	1,053	987	965	869	805	628	618	598	656	622	7,801
うち死亡事故	34	17	26	19	30	17	19	13	14	13	202
人対車両	119	129	127	117	95	85	110	78	83	73	1,016
うち死亡事故	11	10	12	4	8	2	9	2	7	4	69
車両相互	892	836	809	719	684	527	496	502	559	523	6,547
うち死亡事故	13	5	8	7	10	9	6	4	4	3	69
車両単独	42	22	29	33	24	15	12	18	14	26	235
うち死亡事故	10	2	6	8	10	5	4	7	3	6	61
列車					2	1					3
うち死亡事故					2	1					3

○ 過去10年間に発生した交通事故7,801件中、死亡事故は202件発生（2.6%）

○ 過去10年間に発生した人対車両事故1,016件中、死亡事故は69件発生（6.8%）

2 人対車両事故の事故類型別発生件数の推移



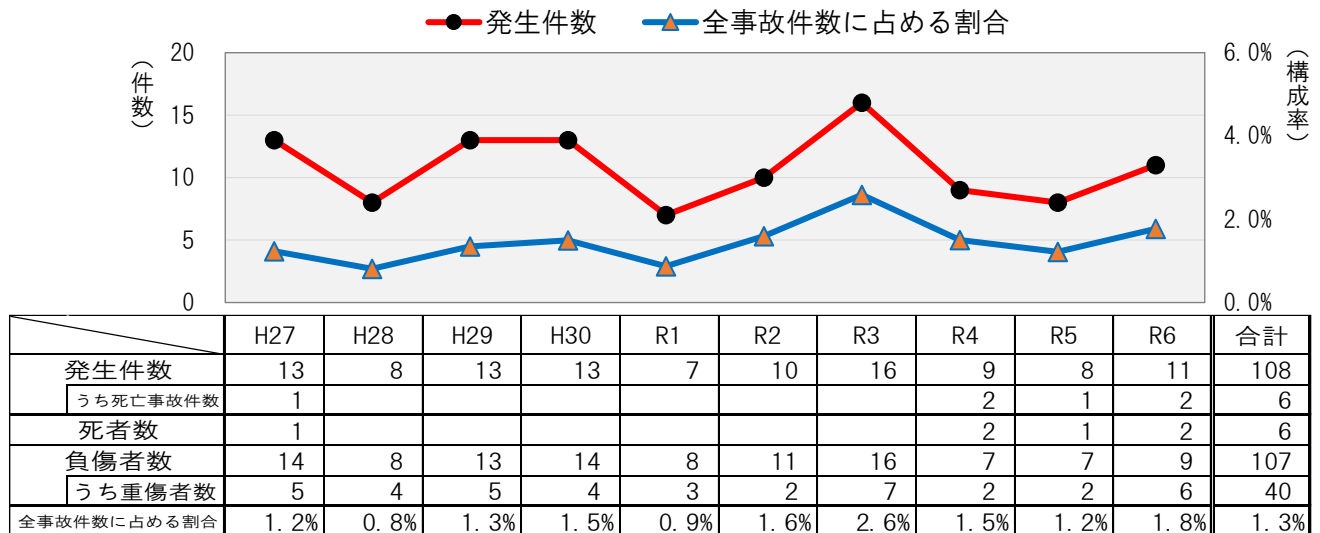
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
対面・背面	19	22	11	23	6	19	18	10	11	10	149
横断歩道横断中	39	41	34	43	34	34	41	32	28	31	357
横断歩道以外横断中	38	32	45	19	25	14	28	13	17	16	247
人対車両その他	23	34	37	32	30	18	23	23	27	16	263
合計	119	129	127	117	95	85	110	78	83	73	1,016

○ 過去10年間に発生した人対車両事故1,016件中、横断歩道横断中が357件（35.1%）と最も多い。

○ 横断中で見ると、604件と人対車両事故の59.4%を占めている。

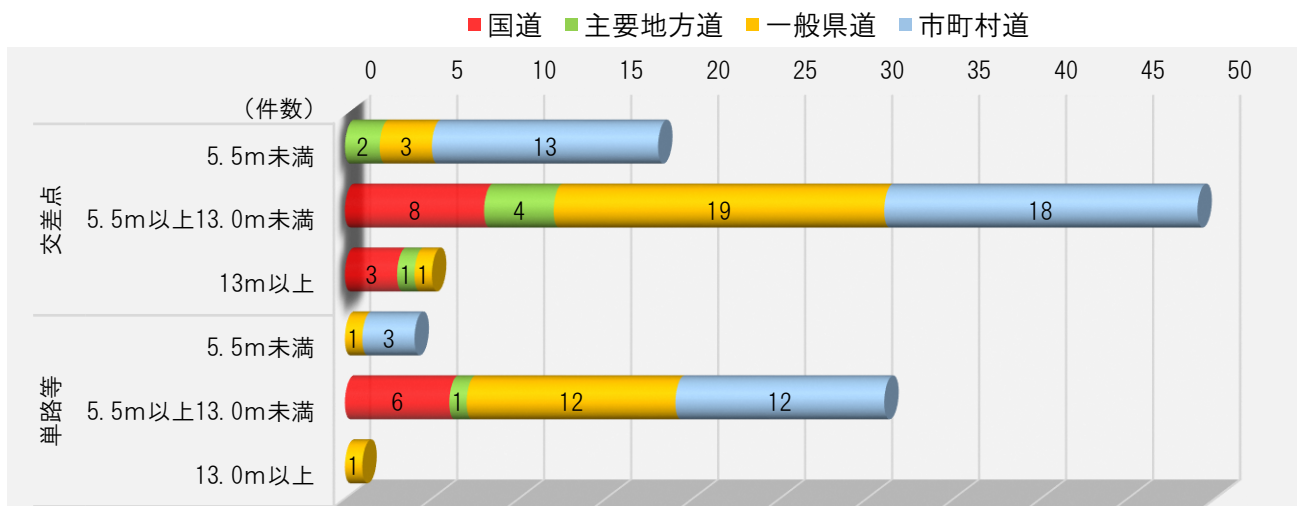
3 信号機のない横断歩道における交通事故発生状況（件数108件）

(1) 過去10年間の推移



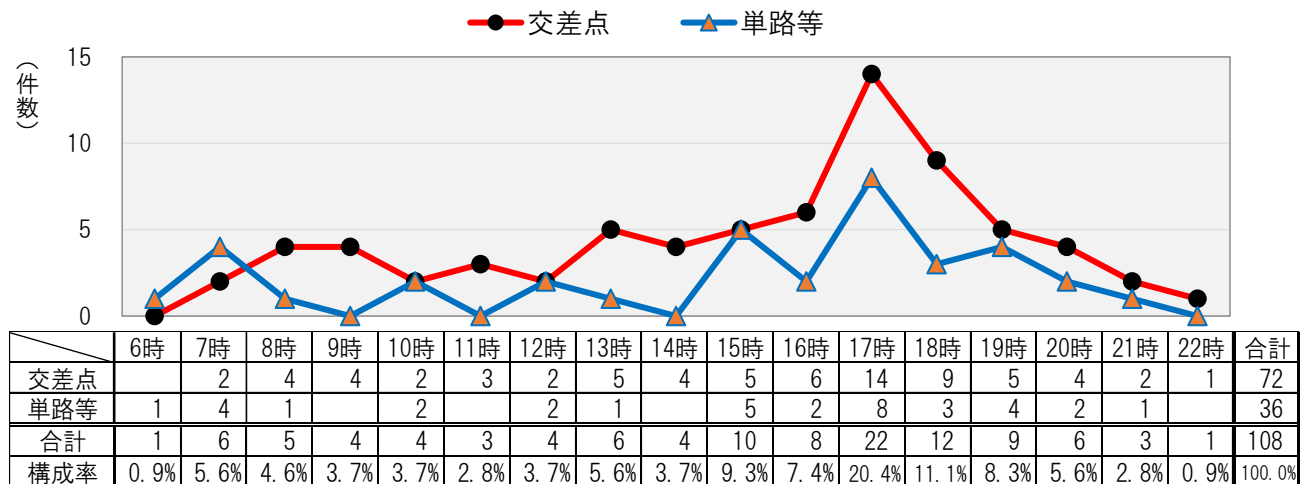
○ 過去10年間で、信号機のない横断歩道において交通事故が108件発生、6人が死亡し、107人が負傷している。（死傷者数113人）

(2) 道路形状別・路線別・車道幅員別発生件数



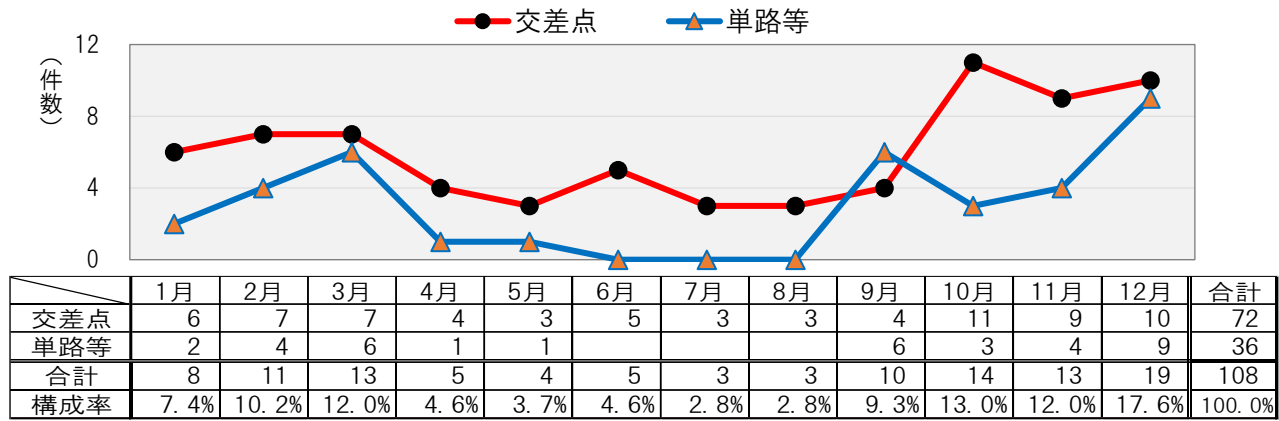
- 路線別では、市町村道で46件（42.6%）、一般県道で37件（34.3%）発生している。
- 道路形状別では、交差点で72件（66.7%）、単路等で36件（33.3%）発生している。
- 車道幅員別では、交差点、単路等ともに5.5m以上13.0m未満の発生が多い。

(3) 時間別・道路形状別発生件数



○ 時間別では、15時から19時台の発生が多く、特に17時台は22件（20.4%）で最多。

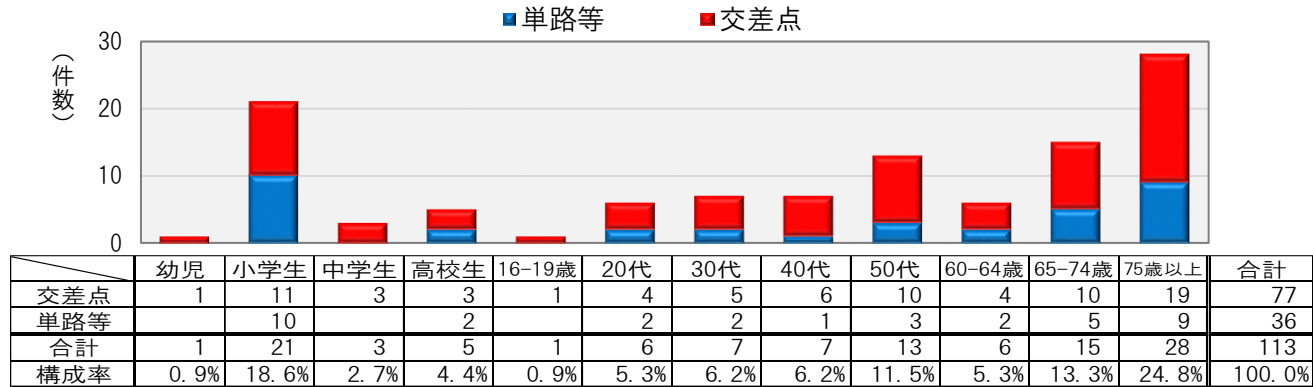
(4) 発生月別・道路形状別



- 発生月では、9月から12月にかけて発生が多く、特に12月は19件（17.6%）と最多。
- 道路形状別では、9月を除いて交差点での発生が多い。

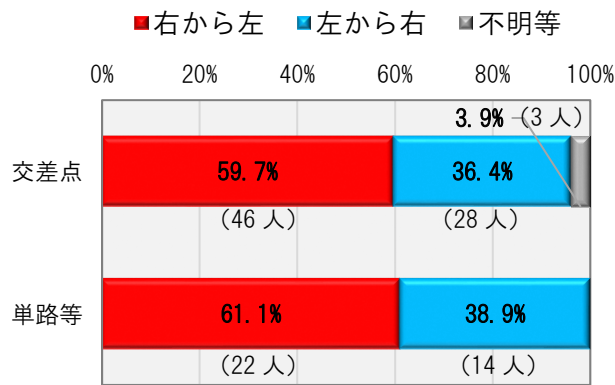
4 信号機のない横断歩道における死傷者の状況（死傷者数113人）

(1) 年齢層別・道路形状別死傷者数

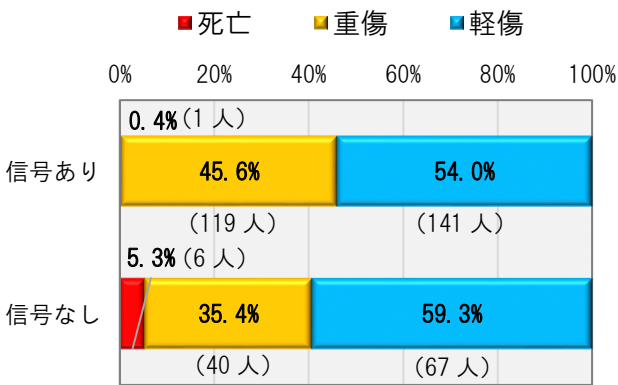


- 年齢層別の死傷者数は、75歳以上が28人（24.8%）と最も多く、小学生が21人（18.6%）と続く。（65歳以上の高齢者は43人（38.1%））
- 道路形状別では、高齢者は交差点の割合が高く（43人中29人（67.4%））、小学生は他の年齢層と比較すると、単路での割合が高い（21人中10人（47.6%））。

(2) 車両から見た進行方向別死傷者



(3) 死亡率（信号機のある横断歩道との比較）



- 進行方向別死傷者
交差点及び単路等ともに右から左への横断の割合が高く、全体では右から左に横断時が60.2%（68人）で、左から右に横断時の37.2%（42人）の約1.6倍となった。
- 死亡率
信号機のない横断歩道における死亡率（死亡率＝死者数／死傷者数）は約5.3%で、信号機のある横断歩道の死亡率約0.4%の約13.9倍となった。
（信号あり 261人中1人、信号なし 113人中6人）

※ 「単路等」には交差点付近が含まれています。